# 豪壮なうたの祭典

## 九州のうたごえに参加しよう

第六回九州のうたごえは十月四日、五日の両日にかけて、いよいよわれわれ労働者の街大牟田でひらかれることとなつた。〝うたごえは平和の力〟だ、平和の存在がますます危うくなつているいまこそ、われわれは声を大にして高らかにうたいあい、そして大会に参加しあおう。大会には九州のすみずみから、仲間たちが一万名ちかく参加しようとしている。みんな手をとりあつて、前へ進もう。

まず大会は四日午後六時から市民会館と舞鶴公園のうたごえ前夜祭ではなばなしく幕をあける。創作合唱の発表会、おどりが披露され第六回の九州のうたごえがスタートするわけである。

あくれば五日が本祭典、会場は大牟田市体育館、港務所港会館にわかれて、各職場別のうたの交流がくりひろげられる。

午後からは野外祭典、こんどの大会には九州の各地から一万名ちかくが参加するとみられており、これら一万名の仲間たちが、会場の延命公園にあいつどうわけである。

なお、炭労関係では大会終了と、炭鉱の仲間同志が集つてうたごえを通じて交流しあう予定もたてられており、こういう機会を生かしてお互いが心の底からうたいあい話しあつて、炭鉱で働くもの同志が一つになりあい、励ましあうことは大きな前進をかちとるものと思われる。

九州のうたごえ祭前に、いま各支部のうたごえサークルの仲間たちは、懸命な練習に余念がないだろうが、本紙では三池労組の六支部（宮浦、四山、三川、本所、港務製作）の仲間たちや、九炭労各支部のうたごえの仲間たちの、日どろの活動状況を紹介してみた。

なお、各うたう会の活動状況、紹介はそれぞれサークルの代表からよせられたものである。

昨年の大会は福岡で盛大に行われた

## 闘いの中で誕生

### 宮浦支部の合唱団

宮浦合唱団は四十三日の闘いの中で生まれたといつても過言ではないだろう。

闘争突入後、教宣部からの話で十名の有志が集り、教宣活動とともに各地域（アコーディオンを抱えて〝幸せの歌〟〝燃やせ闘魂〟等を歌いまくつたことが、その発端だ。その十名の基礎になるものはやはり第一回九州のうたごえ以後、野火のごとく広まつた〝うたごえ運動〟の力である。

四十三日の闘争後〝すぐにでも合唱団を〟の声が高くなり、じつくりその十名の中八名が団員として活動しているのだ。地域職場における歌唱指導、またメーデー前夜祭をはじめ種々の行事に参加等々三年に何々とする月日をへて現在には行動隊員の人が十数名もいて各々の職場で頑張つている状態もある。

現在員三十三名で互いに人間関係を作りつゝ、組織の強化をはかつて行くことに専念している。大きな特色は本所、三川、四山の各合唱団と違つて女性がいないことだろうそのせいか物事が何でもザツクバランである。九州のうたごえに参加するのは、宮浦合唱団としては昨年に続いて二度目であるが、張り切つて練習にはげんでいる。（写真は仕事が終つて練習する宮浦コーラスの人々）

## まず親睦が第一

### 多彩なレクレーション

「うたごえサークル」として発足したのが一昨年十月。まだ二年生になろうかという赤ん坊でありますが、技術といつても未熟ですし「どんぐりの背くらべ」ていど、会員の親睦によつて序々に向上しようとしているところです。

結成当日、丁度三鉱労組組合歌「炭ほる仲間」の楽譜が小林秀雄（音楽センター）先生のところから到着したばかり、初のテープ吹込みをおこなつて、新組合歌の第一声を飾り、有意義な「うたごえサークル」のスタートを切つたのです。その結成いらい、現在まで一度の練習も怠ることなく、毎週木曜日一回本所支部会議室で五時半ごろより約二時間、歌のレツスンたまにはフォークダンス、踊り（民謡）雑談などやることもあります。組合員は職場が坑外ばかりなので、連絡その他スムースにとれ心配する面はありません。

合唱団員は男二十名、女三十名の混声ですが、普通の練習日の出席は三十五名を上下したところです女性の大半が看護婦さんですが、宿直などもあつて、レツスンに出られぬ場合もあるようです。また組合員は若い仲間が多く、夜学に通つている人もあり、とうてい会員全部の出席はなかなか困難であります。

### ソレツケ節

(1)へソレツケヨイヨイ
ソレツケヤレツケヤツコラサ
（以下繰返し）
つるはし重いよヤツコラサ
ばらすの頭をヨイトコショ
(2)へソレツケヨイヨイ
ソレツケヤレツケヤツコラサ
おれたちや炭掘るヤツコラサ
やまの仲間がヨイトコショ
(4)へうずまく炭塵ヤツコラサ
キヤツプはきらめく
ヨイトコショ
（以下同じ）
(6)へもえろ石炭ヤツコラサ
機関車走れヨイトコショ
(7)へ国鉄　炭労ヤツコラサ
スクラム固いぞヨイトコショ

※このうたは国鉄のうたですが、炭労も杵塵労組で作詩したのをうたいます。奇数は国鉄、偶数は炭労でうたい(7)は合同でうたいます

## 行動隊と合同で

### 四山コーラス

四山コーラスは、四山社宅の中央にあたる労組事務所階上で、週一回（火曜日）につどい、練習しています。会員は現在四十名。そのなかには女性が十五名あまり。会員の環境が同一なので、はやくなじめるようだ。

指揮者は大牟田でピカ一の荒木栄さん、軟硬交さの指揮ぶりには、会員の諸氏、感心したり冗談をいあつたり、なかなか愉快な練習風景がみうけられる。

九州のうたごえを目前にひかえた当コーラス、そして会員はさいごの仕上げとそれにいかにとりくむ

## 胸を張つて合唱

### 古河峰地のうたう会

みんなで声を合わして歌うたのしさ、ひとりでも多くの仲間とともにうたうことのよろこび、これが古河峰地のうたう会の合唱団の目的であります。

会員は月二十円、支部からの援助金、会場は月二十円、支部からの援助金、会場は月二十円、支部からの援助金、会場は月二十円、支部からの援助金、会場は月二十円、支部からの援助金、会場は月二十円、支部からの援助金、会場は月二十円、支部から

## 炭鉱のみなさん

九州炭労　丸岡吉夫

九州炭労は結成してから六年目をむかえ、その活動は炭労の中軸となり、また炭鉱の所在する福岡県、佐賀県、長崎県では地域労働者の中心となつて闘つています。いま、こうして皆さんが、第六回九州のうたごえに参集された力は、数においてもその質においても群をぬいています。なお、今回大牟田市で行なわれることの意義はもうすまでもなく、「うたごえは闘いとともに」のスローガンにもつとも忠実、これは平の中とはしる仕事だから、かえつて硬い流行歌で気分的に解放されようともおもわれるが、どうもこれには〝明るさ〟や〝希望〟があまりない。このような人たちにもつと明るい〝生活〟のにじむ歌が歌われるようになつたら素晴らしいことだ。このためには、サークルの人がより積極的に動くことが大切だが、それとともに誰でも気易く飛びこんでほしいものだ。こんどの九州のうたごえは、その意味では重要な意義をもつている。前記の種々の悪条件を、お互いが克服して〝踏ん張り〟と〝希望〟をもつて高らかに歌い続ければ〝ヤマのうたごえ〟はますますさかんとなることだろう。

## 愉快な練習風景

### 四山支部コーラス

実のりの秋をむかえ、ますます練習に実が入つてきた四山コーラスを紹介しましよう。

四山コーラスは、四山社宅の中央にあたる労組事務所階上で、週一回（火曜日）につどい、練習しています。会員は現在四十名。そのなかには女性が十五名あまり。会員の環境が同一なので、はやくなじめるようだ。

指揮者は大牟田でピカ一の荒木栄さん、軟硬交さの指揮ぶりには、会員の諸氏、感心したり冗談をいあつたり、なかなか愉快な練習風景がみうけられる。

九州のうたごえを目前にひかえた当コーラス、そして会員はさいごの仕上げとそれにいかにとりくむ



九州のうたごえに参加された皆さんに、紙面をかりてあいさつを送ります。

九州炭労は結成してから六年目をむかえ、その活動は炭労の中軸となり、また炭鉱の所在する福岡県、佐賀県、長崎県では地域労働者の中心となつて闘つています。いま、こうして皆さんが、第六回九州のうたごえに参集された力は、数においてもその質においても群をぬいています。なお、今回大牟田市で行なわれることの意義はもうすまでもなく、「うたごえは闘いとともに」のスローガンにもつとも忠実、これは平の中とはしる仕事だから、かえつて硬い流行歌で気分的に解放されようともおもわれるが、どうもこれには〝明るさ〟や〝希望〟があまりない。このような人たちにもつと明るい〝生活〟のにじむ歌が歌われるようになつたら素晴らしいことだ。このためには、サークルの人がより積極的に動くことが大切だが、それとともに誰でも気易く飛びこんでほしいものだ。こんどの九州のうたごえは、その意味では重要な意義をもつている。前記の種々の悪条件を、お互いが克服して〝踏ん張り〟と〝希望〟をもつて高らかに歌い続ければ〝ヤマのうたごえ〟はますますさかんとなることだろう。



## 謂とニラメツコ

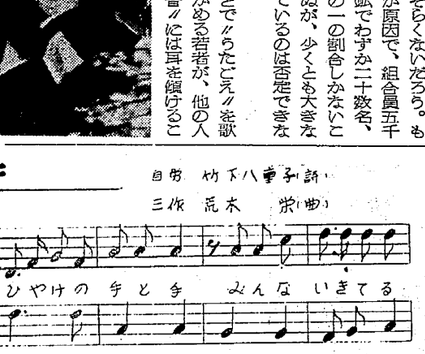
### 誇りと希望をもちたい

＝三池・三川支部＝

九州のうたごえを目前に、いま大牟田では各所にうたごえがこだましている。ここ私たちのヤマ、三川鉱でも毎週火曜になると「炭掘る仲間」などの練習が支部の二階ではじまる。団員廿数名、みんな懸命に譜とニラメツコして大きな声を張りあげる……。

だがかんがえねばならない。この人たちはみんな一日の仕事を終えてスキ腹をかかえながら二時間ほどを練習に励むのだ。おなじ仕事といつても、坑内での仕事はソトでするようにはいかない。キャツプを頭に暗い坑道を歩くだけでも馴れぬ人にはこたえるものだ。他の事実、これは平の中とはしる仕事だから、かえつて硬い流行歌で気分的に解放されようともおもわれるが、どうもこれには〝明るさ〟や〝希望〟があまりない。このような人たちにもつと明るい〝生活〟のにじむ歌が歌われるようになつたら素晴らしいことだ。この人事の中などで〝うたごえ〟を歌いこなすことは、おそらくないだろう。もちろんこれが原因で、組合員五千名の三池鉱でわずか二十数名、実に二百分の一の割合しかないことはおもえぬが、少くとも大きな要因をなしているのは否定できないことだ。

人事の中などで〝うたごえ〟を歌が欲う〝低音〟には耳を傾けることだ。



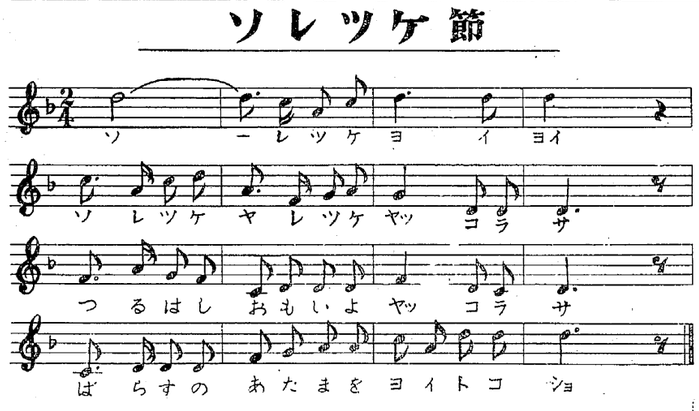
自労　竹下八重子詞
三作　荒木　栄曲

ひやけの手と手　みんな　いきてる
あめにはあぶれても
ろびえても　たたかい　ぬいてきた
（エンヤコラ　ドツコイショ　エンヤコラ　ドツコイショ）

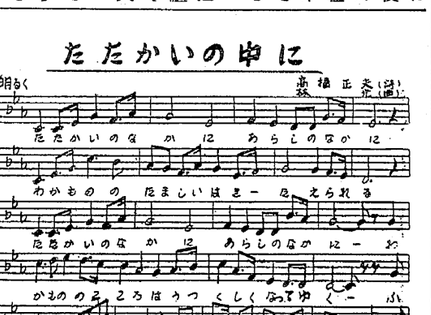
手

一、太い手細い手日焼けの手と手
みんな生きてるわしらの手
雨にはあぶれても
風にはおびえても
闘い抜いてきたみんなの手と手
二、太い手細い手日焼けの手と手
色気はないがわしらの手
夜には針仕事
子供たちの服ぬえば
勇気が湧いてくる

## ソレツケ節




## たたかいの中に



たたかいの中に

たたかいの中に嵐の中に
若者の魂はきたえられる
たたかいの中に嵐の中に
若者の心は美しくなつてゆく
吹けよ北風吹雪
その中を僕らはかけて行こう
くちびるにほほえみをもつて
僕らはかけて行こう
あすは必ず僕ら若者に
勝利のうたがたえるように
行こう皆行こう

## 譜とニラメツコ

### 誇りと希望をもちたい

＝三池・三川支部＝

九州のうたごえを目前に、いま大牟田では各所にうたごえがこだましている。ここ私たちのヤマ、三川鉱でも毎週火曜になると「炭掘る仲間」などの練習が支部の二階ではじまる。団員廿数名、みんな懸命に譜とニラメツコして大きな声を張りあげる……。

だがかんがえねばならない。この人たちはみんな一日の仕事を終えてスキ腹をかかえながら二時間ほどを練習に励むのだ。おなじ仕事といつても、坑内での仕事はソトでするようにはいかない。キャツプを頭に暗い坑道を歩くだけでも馴れぬ人にはこたえるものだ。他の事実、これは平の中とはしる仕事だから、かえつて硬い流行歌で気分的に解放されようともおもわれるが、どうもこれには〝明るさ〟や〝希望〟があまりない。このような人たちにもつと明るい〝生活〟のにじむ歌が歌われるようになつたら素晴らしいことだ。この人事の中などで〝うたごえ〟を歌いこなすことは、おそらくないだろう。もちろんこれが原因で、組合員五千名の三池鉱でわずか二十数名、実に二百分の一の割合しかないことはおもえぬが、少くとも大きな要因をなしているのは否定できないことだ。

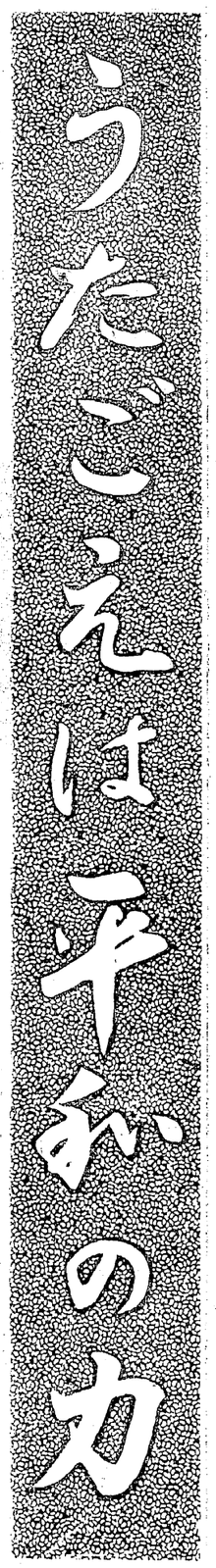
人事の中などで〝うたごえ〟を歌が欲う〝低音〟には耳を傾けることだ。



自労　竹下八重子詞
三作　荒木　栄曲

ひやけの手と手　みんな　いきてる
あめにはあぶれても
ろびえても　たたかい　ぬいてきた
（エンヤコラ　ドツコイショ　エンヤコラ　ドツコイショ）

手

一、太い手細い手日焼けの手と手
みんな生きてるわしらの手
雨にはあぶれても
風にはおびえても
闘い抜いてきたみんなの手と手
二、太い手細い手日焼けの手と手
色気はないがわしらの手
夜には針仕事
子供たちの服ぬえば
勇気が湧いてくる

## うたごえは平和の力